

学校名	稲美町立稲美中学校
-----	-----------

「豊かな心を持ち、自立する生徒の育成」

「自主・創造・友愛」の校訓と「根の養い教育」の伝統を基盤に、生徒一人ひとりの個性を生かし、その能力を伸ばし、感性豊かで「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成に努める。

－「つながる人 つながる つなげる夢・未来」－

①学習指導の充実	②道徳教育の推進
③特別活動の充実と活性化	
④生徒指導の充実	⑤特別支援教育の充実
⑥安全教育の充実と防災教育の推進	
⑦情報教育の推進	⑧食育の充実

5 評価項目ごとの学校関係者評価 ○ 意見 □改善方策・要望

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校運営	開かれた学校づくり ・日々の教育活動を学校便り・学年通信・学級通信・ホームページ等で分かりやすく伝える。 ・地域の方とのふれあいの機会を増やす	A	○コミュニティ・スクールで、地域防災などに学校と地域が連携して取り組むことができた。 ○校区育成協で、コミスク委員さんによる発表でコミスク活動を地域に紹介することができた。 ○多くの生徒がボランティア部として地域行事に参加することができた。 □学校便り、学年、進路、コミスク通信、保健だより、給食だよりを定期的に発行した。 △地域への発信をHPや生徒による広報活動など、より工夫した取り組みをしたい。	○コミスク活動ではボランティア団体、専門職、他校種の学生、地域の人など様々な人との関わりが網羅されていて大変有意義な経験になった。 ○地域の回覧板の稲美中のお知らせ等を地域の方も楽しく見られている。 ○コミスク活動を通して学校と地域との様々な連携に取り組み、その広報活動も評価できる。 ○コミスク活動で地域との連携もよくできており、各便りも充実していて学校の取り組みがよく分かる。 ○中学校との連携により、生徒の様子や考えなど少しづつわかるようになってきた。地域で中学校のことを伝える機会を増やしていきたい。 ○育成協・コミスク・ボランティア部との交流・一元化した活動にも取り組みたい。 □地域への発信に町の広報・HP・有線放送を使えないか □稲美町を知るといふコミュニティでの取り組みもあってもいいのではないかな。 □本当に地域と連携がうまくいっているのか？行政と学校の連携には課題があると思う。
	生徒指導 ・教職員が一致協力して生徒指導を行う。 ・生徒の内面理解に基づいた指導を行う。	B	○校則の見直しを生徒会執行部を中心に全校生で検討し、より自主性を重んじた、快適な学校生活のための校則の改定を行うことができた。 ○ふれあいルームを校内に設け、教室に入りにくい生徒らに全職員で関わっている。 □Q-Uテスト・困りごとアンケートを定期的に実施し、結果を共有し、いじめ等の指導に活かしている。 △増えている不登校生徒に対し、保護者や関係機関とさらに連携して減少に努める。	○校則の見直し、制服の新調など生徒たちの自主性や思いを重視した取り組みがなされた。 ○イレギュラーな対応を少ない教職員で回して本来の業務が大変であると思われます。SCさんとSSWさんだけでなく、別室のボランティアなど設置されたら良いのにと思っている。 ○生徒たちは“ふれあいルーム”に何を求めているのか、自己発見の場であってほしい。 □不登校生徒への対応について、ふれあいルームの活用を含め、今後も保護者と連携を進めていただきたい。 □生徒記述にある少数のネガティブな意見に耳を傾けていく必要がある。授業中うるさいことには早急な改善を！ □接遇を学ぶ機会を設けてはどうでしょう。相手の事を考えた言葉使い、態度、コミュニケーションなど、対人関係について考えることができるとと思います。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校運営	進路指導(キャリア教育) ・職業観、勤労観の育成と個々の能力・適性を踏まえた進路指導(キャリア教育)を行う。	A	○職業講話・トライやる・ウィークなどの体験活動や生き方を考える学活や進路作文等の表現活動により、自己理解や進路についての考えを深める機会をつくっている。 ○生徒が自分の興味、能力や適性を踏まえた進路選択を3年間を見通し計画的に指導している。 □二者面談、三者面談を行い、自己を見つめる指導、よりよい進路選択へ繋げている。 △1年生から自分の夢や生き方について保護者と共に考える機会を増やしたい。	○コロナ禍で子どもたちに我慢を強いるばかりだったここ数年ですが、少しずつ色々なことも戻ってきているようで良かったと思う。この年でしかできない活動をもっともってほしいです。 ○1年時から自分の夢や生き方について考えることは大切であり、保護者、地域の人たちなど人生の先輩の話を聞くことも有意義であると思う。 ○今、国として若者に何を求めているのか、何が必要か等の議論も必要だ。 ○教師と生徒が進路について話し合う機会は多くあると思うが、1年生の時から保護者を巻き込んで将来の事を少しずつ話し合うことの大切さを知らせていく必要性を感じた。 □それぞれの発達段階に応じた系統的な指導をお願いしたい。 □生徒記述には夢について語っているものも多い。職業講話など、マンネリ化しないよう、生徒の夢に近い職業の方をお願いするなど考えてほしい。進路と夢がつながる希望を持たせたい。
	教職員の資質向上 ・計画的な研修を通して教師の資質向上を図る。	B	○防災教育、人権教育、道徳教育など資質向上のための職員研修を実施している。 ○I初任者研修、2年目、10年目研修など経験に応じた研修に積極的に参加している。 △指導と評価の一体化について研修を組織的に行っていききたい。 △「主体性を育み、意欲を引出す授業づくり」研究のテーマとして相互参観などに取り組んだ。成果が現れるよう、今後も指導力向上に全職員で研鑽を積んでいきたい。	○クロームブックの活用含めこれからを生きる子どもたちに必要な学びを引き続き先生方には提供してほしい。 ○授業研究は授業づくりに欠かせないものであり、引き続き全職員で研鑽を積んでいただきたいと思います。 ○一人の先生の研修内容を全職員で共有できる取り組みを続けて下さい。 □一つのテーマをチーム(数人)で研修するのも良いのでは。 □以前の教材の流用などは改善し、生徒の興味を引く授業を望む。教員間の言葉遣いは気をつけてほしい。 □スキルの向上にも必要だが、過負荷に繋がっていないか。むしろ生徒たちに何が必要か、考えるゆとりもほしいのではないか。
	部活動指導 ・生徒の健康・安全に配慮し、自発的な活動を行う。	A	○新型コロナ感染に注意しながら、より健康、安全に気をつけて取り組むことができた。 □ノー部活デーの実施など部活動方針に基づいた部活運営を推進している。 □生徒の自主性を高め、仲間の大切さなど心の成長につながる部活動指導を今後もしていく。 △地域移行に向け、部活動の果たす役割を継承したよい部活動の方向性を検討していきたい。	○地域移行や今後の展望について気になります。 ○生徒たちにとっての部活動の意義を教師と保護者等関係者がしっかり理解し合えることが必要だと感じる。 ○保護者も地域も地域移行に関心が高いです。その都度発信できると協同して進めることができると思う。 ○地域移行も課題も多いと思う。北中との合同部活なども検討してはどうか。部活動の小学校訪問等あってもいいのではないか。 ○部活については熱心に取り組まれていると思うが、部活動の地域移行がどの様になるのか知りたい。 ○部活動担当の地域移行については沢山の課題があると思う。生徒と教師にとって最適な解決策を願う。 ○教員の長時間勤務について改善すべく良い考え。一方で地域移行については地域と生徒の考えを取り込み、皆が納得して活動する必要がある。
分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程	確かな学力の育成 ・基礎基本の定着を行う。 ・「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。	B	○多くの考えに触れさせ、主体的に課題解決に取り組める授業の指導方法を工夫している。 ○休みがちな生徒にも、授業の情報や課題の提供を、細やかな学習支援に努めている。 △休み中の補習やテスト前の質問会など課題のある生徒への個別対応を継続していく。 △評価の観点からの指導力向上もしていく。	○個別対応等自主的に学習する習慣を身につけることができるように取り組まれていることを評価します。 ○学習課題に対して、その背景や関連事項の研究など、線ではなく帯の学習ができればと思う。 ○難しい学習をわかり易く指導してもらうことはとても重要で、学力意成のための指導法の研究は継続して取り組んでいただきたい。 □きめ細やかな支援をこれからもお願いします。 ○子どもによっては「主体的な～」が質的にしんどくて学校に来づらくなったりもするのではないか。個の尊重も柔軟に取り入れつつ取り組んでほしい。 □生徒が積極的に意見を発表したり、わからないことが質問したりできるような授業の工夫をしてもらいたい。
	特別活動 ・学校行事の精選と行事内容の充実を図る。	A	○目的を明らかにし、行事を充実できるよう工夫して取り組んでいる。 ○コロナ対応の経験を活かし、感染対策をしつつ、多くの行事を実施することができた。 ○生徒会活動や行事を通してリーダーを育て、生徒のよい関係作りに努めている。 △仲間や集団の意識を高める、温かいふれあいの機会を意識的に増やしていきたい。	○生徒達が自主的に取り組むことができる機会をつくられていることは、すばらしいことだと思います。 ○仲間づくり(人間関係の構築)に大切な取り組みです。達成感が味わえるように、いい経験ができるようお願いします。 ○生徒会を中心に、生徒自らの工夫が生かされていると思う。 ○生徒が主体的に運営していることを知り、中学生の底力を引き出す指導者の指導に感謝している。 ○コロナ禍で大変な中、いろいろと工夫されて充実した取組ができています。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程	道徳教育 ・全教育活動の中で道徳性を高める。 ・「特別の教科 道徳」の指導を工夫する。	B	○講師を招いて全校公開授業や指導方法の研修を積極的に行うことができた。 ○ローテーション授業では教師が相互に授業参観し指導改善に取り組んでいる。 △道徳科の評価方法についての情報交換を積極的に行い、よりよい評価を目指したい。	○道徳が評価されるという事について「見る側(子・保護者)」は面白いですが、行う側は難しいと思います。 ○ローテーション授業など、先生方の指導改善に向けた取り組みを評価します。 ○道徳の授業の上手な先生は、教科の授業のスキルも高いと思っています。引き続きの取り組みをお願いしたい。 ○道徳授業で、様々な先生が関わるローテーション授業は必要であると思う。今後も継続していただきたい。 ○指導改善に取り組まれているが生徒の心に響くような指導を目指して、さらに研修を深めてもらいたい。
	総合的な学習の時間 ・全体計画の作成とその取り組みの工夫・改善を行う。	A	○各学年で全体計画を立て、しっかりと取り組むことができた。 ○コロナ禍で目的に沿った行事を工夫して行い、取組を充実することができた。 □3年間を通して生徒を育てる視点を持ち、目的意識をもって効果的にやっていきたい。	○コロナ禍においてもしっかりと取り組まれたことを評価します。 ○他の領域と重なる分野ですが、今日的課題を設定することもできると思います。 ○福祉学習、食育、進路学習等、積極的に取り組まれていると思う。 ○3年間を通した全体計画を立て、各学年の発達段階に応じて、指導に取り組まれている
	特別支援教育 ・個に応じた指導計画を作成する。 ・指導方法や指導体制の工夫を行う。	A	○小学校と連携し、児童生徒の入級相談や入学後の指導について情報交換している。 ○特別支援学級の授業により多くの教師が関わるすることができた。 □生徒の学びに即したきめ細やかな指導を積極的に行っている。 △個々の生徒に関する教職員間の情報共有を密にし、職員の連携を強めていきたい。	○生徒それぞれの学びに即したきめ細かな指導を積極的に行われていることを高く評価します。 ○引き続き愛情深いきめ細やかな指導をお願いしたい。 ○生徒個々の特性を理解し、その子に合った教育をすることで生徒自身が将来について前向きに考えていけるのではないだろうか。 □生徒の個を導き出す教育を望む。
	人権教育 ・人権尊重の精神を育成する。	B	○日々の指導や教育活動の中で、自分も相手も大切にできる生徒の育成に努めている。 □生活ノート・日頃の対話を大切にし、生徒理解を深めていく。 △人権教育について全職員で研修し、人権意識を高める授業づくりにさらに取り組んでいきたい。	○他人のことを大切にできない言葉や態度をとる生徒に対して相手の気持ちを想像する心がもてる教育が必要だと思う。 ○お互いの違いを認め合える人間育成に、より務められることを望みます。 ○適切な言葉遣いをしたり、傷つける言葉を言わないように気をつけたり、相手を大切にする言動についての指導の継続をしてほしい。 □新しい課題も出てきています。教科も見直し、授業を工夫して取り組んでほしいと思います。
	食育の推進 ・教育課程・学校給食を通した食に関する指導を行う。	A	○給食試食会の時期を早め、より多くの保護者に参加してもらえた。 □1年生で生産者との交流等の地域連携も積極的に行っている。 □食に関する指導の全体計画に基づき栄養教諭を中心に推進している。 ○食育放送や掲示板な給食委員会や栄養教諭による充実した取り組みがされている。 △食育を意識した教育活動や研修に学校全体で取り組んでいく。	○給食を通しての食育指導に積極的に取り組まれており、評価します。 ○栄養があって、美味しい給食を毎日ありがとうございます。もう一度食べたいです。 ○人が生きる上で大切なことだと思いますので、ぜひ続けていただきたい。 ○食育教育において生産者の話を聞くことで、食べること、食物に対する意識が変わるのではないかと。 □給食や昼休みに時間のゆとりがもっとあると良いと思います。
分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
課題教育	情報教育の推進 ・情報モラルを育成する。 ・ICT機器の効果的利用を推進する。	A	○授業が教室で受けられない生徒にタブレット端末を使って授業の配信を行っている。 ○デジタル教科書などICT機器の活かした授業を、より多くの教科で取り入れている。 ○コロナ感染予防対策をした上で、外部から講師を招いて情報モラル教室を実施できた。 △ICT機器設備の充実とそれらを有効活用できる教師の指導技術も高めていきたい。	○ICT化においては、教師や保護者が生徒にとって有意義に活用できるように取り組む必要があると思う。 ○スマホの使い方について、防犯対策だけでなく、脳や身体、行動面に与える影響などを考える機会があればと思う。 ○情報モラルの大切さについて継続的に指導することが必要である。 □ICT機器の活用については外部講師に携わってもらえるところは任すというのはどうだろうか。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
課題教育	防災教育・安全教育 ・災害や犯罪から自らの生命を守るため主体的に行動する力を育成する。	A	○「ふるさとデー」では、災害時に主体的に行動すること等、防災の意識を高めることができた。 ○安全のため、施設の修理、点検をこまめに行い、修理工事を町教委に要請している。 □自転車での登下校時の並進等について安全意識の向上を今後も啓発していく。 △避難訓練は異なる時間帯、被害状況に応じた教師の動きについて研修が必要である。	○防災のみならず登下校での交通ルールの順守等自分の命は自分で守るを徹底することが必要である。 ○安心・安全に過ごすことができるようによりしくお願いしたい。 ○災害発生時、中学生が果たす役割は多岐に亘る。「ふるさとデー」の体験は非常に重要と思う。 ○中学校が中心となって防災活動が進んでいることは心強いです。今後も協力して地域に広めたい。施設の点検は専門業者になっているのでしょうか。 →専門の業者が必要なところはいくつかは業者にしてもらっています。 ○安全面で下校時刻について9月は夕暮れが早くなり遠距離の生徒の帰宅時は真っ暗だということで下校時刻を早める対応を即座に行っていた。 ○自分の命を守る行動についてよく考えることができていると思う。 □避難訓練は異なる時間帯にされていますが、学校もBCPの作成をされているのか。 →避難計画を作っています。
	体験活動の充実 ・行事への目的意識を高める指導を行う。 ・地域社会と連携した指導を行う。	A	○今年度もコロナ禍でいくつかの交流行事が中止となったが、特別支援学校や高齢者施設へ手作りのプレゼントを贈るなど心の交流を行う機会がもてた。 ○トライやる・ウィークは事業所の協力で実施でき、貴重な学びの体験となった。 △体験活動を行う際に、より目的意識をもちマナーを守って取り組む指導を意識して行う。	○トライやるウィークを通して地域の人たちとのふれあいの中で貴重な体験ができていることは評価できる。 ○コロナ禍で大変だったと思いますが、地域とのつながることができる機会である。 ○トライやるで地域で中学生を預かった経験から沢山学ぶことがあった。お互いの学びと地域活性のためにも末永く継続してほしい。
努力目標	・学習習慣を確立させ、自ら主体的に学ぶ態度や意欲を育成する。 ・家庭学習の充実を図る。	B	○始業前着席や授業の準備など、学習に前向きに取り組む姿勢ができている。 ○タブレット端末を使った授業や教材の配信で家庭学習がより取り組みやすくなった。 △家庭学習を充実させるため、課題の工夫をし、啓発を継続し、生徒の意識を高めたい。 △学習規律を確立し、生徒の学習意欲を高める指導力の向上に全職員で取り組みたい。	○自主的に学習する習慣を身につけることが大切であり、生徒たちの学習意欲を高める授業研究に期待している。 ○家庭学習が充実するようタブレットの教材配信で生徒が自主的に学習できることはすばらしい。学習意欲が向上する課題提供をお願いしたい。 ○授業の準備はよくできているが、ベル着については課題があるように思う。 □家庭学習は単に学科の予習・復習ではない。関連事項の調べ等、幅広い知識に興味を抱く学習も必要なのではないか。 □宿題や家庭学習の習慣をつけるのは、小学校の低学年がいいと聞いています。時間はかかりますが。中学校では点検やアドバイスが大切だと思います
	・全教育活動を通して生徒の自尊感情を高める。	B	○ボランティアなど生徒が地域に出て人とふれあう中で、生徒の自尊感情が高まった。 ○生活ノートや普段の生活を注視し、対話を増やして個々の思いを知るよう努めている。 △コロナ禍、SNS社会などの影響もあり、人間関係形成や人とのコミュニケーションに不安を感じている生徒が増えている。全教育活動で心を育てる意識をもって取り組みたい。	○人と人との会話の機会が減っている。様々な人とのふれあいの場をたくさんつくっていただきたいと思う。 ○ボランティアを通して様々な人々の考えや経験などを知り、学びの場になってほしい。生徒から学ぶこともあり、できるだけ参加したい。 ○自尊感情や心を育てることはとても大切なことだと思う。 ○学校外での行事などで稲中生がボランティアとして参加していた。地域に出かけ活躍している姿は頼もしい。 □人の役に立つと嬉しいし、心の中に変化が出てきます。信頼されると変化が起こります。チャンスは沢山あると思います。自分を知ること大事。中学生の時にできると思います。 □ライフの活用について再考が必要。(アンケートでライフを提出していないという生徒がいたので) □コミュニケーションを苦手とする要素、別の指導などの工夫も必要と思う。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
努力目標	・ルールを守る生徒を育成する。 (時間・頭髪・服装)	B	○校則の見直しでは、生徒たちは自分たちでしっかり考えることができていた。 ○全体として生徒・保護者ともに学校評価アンケートの規範意識に対する評価が高い。 △安全や健康の面からも、朝に余裕を持って登校できるよう呼びかけを続けていく。 △登下校の安全を考え、生徒が交通ルールを守る意識を高めたい。	○ルールの必要性和守ることを意味を生徒自らが考えられるように指導されていることを評価します。 ○生徒たちで考えてやることは良いことだと思います。 ○学生といえど社会の一員であり、社会的な立場を認識した行動が求められると思う。 ○校則の見直しを生徒が中心になって行ったことに意義がある。
	・TPOを考えた言動のできる生徒を育成する。(言動・礼儀・あいさつ)	A	○地域の方とふれあう中であいさつや言葉の大切さを感じさせることができた。 ○集団生活で大切な思いやりやマナーの大切さについて、日々の生活の中で伝えていく。 ○校則を見直す中で、生徒にTPOを考えたよい言動について考える機会を増やしたい。 △あいさつの良さや大切さを伝えていきたい。	○挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、みんなが笑顔で目を見て挨拶ができるようになるとすばらしいと思う。 □第三次産業の占める割合が70%の昨今、挨拶やマナーの大切さは増々必要になってきます。人間関係を築く上でも大切にしたいものだ。 ○地域の中で気持ちの良い挨拶を聞くことが増えてきました。嬉しいです。 ○昨今TPOに応じた挨拶ができていない大人が多い中、今からそれを身につけていくのは大切である。 ○挨拶や自転車での登下校についてはきちんとできている。(ウォーキングの時に、生徒達が並進していても私が近づくとう一列になってくれる。)
	・教師も一緒に清掃し、校内をきれいにする態度を育成する。	A	○清掃には教師が同行し、生徒も清掃活動にしっかりと取り組んでいる。 ○生徒会美化委員による用具の点検活動ができている。 □定着した新しいトイレの掃除方法をよい形で引き継がせていきたい。	○清掃活動においては、教師・生徒もしっかりと取り組まれており、評価します。 ○美しい環境の中で学校生活が送れていることに感謝します。用務員さんにもお礼をお伝えください。 ○とてもきれいで心地よいトイレになり、生徒たちも生活が充実していると思う。清潔さを維持するための清掃が定着するよう願っている。

自己評価における特記事項

・校内適応教室(ふれあいルーム)を設置し、常駐の担当者だけでなく、職員で協力して不登校生徒に関わることができている。 ・PTA役員が中心となり、PTA組織のスリム化・組織改編に取り組むことができた。PTA活動のより良いあり方を模索していく。 ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)発足3年目となり、地域防災教育を軸にした活動が定着しつつある。地域の力を借りてより良いものにしていきたい。	今後ともコミスク活動を通して、主人公である生徒たち、そして保護者・教職員のさらなる連携が充実することを期待している。 ○ふれあいルームはどのようなものですか？ →教室に入りにくい生徒が、Zoomを使ったり、自分のペースで学習したり、心を休めたりする場です。 ○ふれあいルームの開設は、生徒の居場所作りとして大きな前進である。 ○ふれあいルームが生徒のくつろげる場になるようにさらに進めてもらいたい。
---	---